

2023年度日系社会研修研修コース一覧

研修センター	実施形態	複数年度採択有無	区分	No.	分野	研修科目和文	研修科目英文	入人数	上	下	来日	終了	提案団体	提案団体英語表記	提案団体URL	担当者名	NAME	E-mail	現職・資格・知識	学歴	経歴年数	年齢	日本語能力	英語検定	①目標	②成果	③計画(内容)	備考	
37	札幌	個別長期	無	継続	L1	保健医療	作業療法学	Occupational Therapy	1	上	5/7	2/1	札幌医科大学	Sapporo Medical University	https://web.sapmed.ac.jp/	作業療法学 学科長 仙石 泰仁	SENOKU Yasuhiro (Mr.)	sanzoku@sapmed.ac.jp	現地の作業療法士資格または理学療法士資格を有している者(学士もしくは同等程度の学力)	大学卒業程度	1年以上	不問	N3以上	英語でのコミュニケーション可	作業療法教育および臨床実践	1. 学部・大学院授業の聴講 2. 臨床作業療法の見学 3. 作業療法関連学会、技術講習会への参加 4. 日本人学生・大学院生との交流会 5. 現地の関連施設の見学	1. 学部・大学院授業の聴講 2. 臨床作業療法の見学 3. 作業療法関連学会、技術講習会への参加 4. 日本人学生・大学院生との交流会 5. 現地の関連施設の見学	研修では医療機関での見学を含むため、来日する際には4種(麻疹・風疹・水痘・ムンプス)抗体検査結果に基づくとワクチン接種、B型肝炎抗体検査結果、COVID-19ワクチン3回接種を終えている必要がある	
38	札幌	個別長期	無	継続	L2	保健医療	理学療法学	Physical Therapy	1	上	5/7	2/1	札幌医科大学	Sapporo Medical University	https://web.sapmed.ac.jp/	理学療法学 学科長 渡邊 耕太	WATANABE KOTA (Mr.)	wkota@sapmed.ac.jp	現地の理学療法士資格を有している者(学士又は同等程度の学力)	学士又は同等程度の学力	実務経験3年以上	不問	N2	不問	基礎的理学療法を理解し、日本における理学療法士の役割や機能を説明できること。 地域における高齢者に対する理学療法サービス(介護予防を含む)の理学療法研究法	1. 成人中枢神経障害、小児発達障害の理学療法 2. 運動器障害(スポーツ障害を含む)の理学療法 3. 地域における高齢者に対する理学療法サービス(介護予防を含む) 4. 理学療法研究法	1. 学部・大学院授業の聴講 2. 臨床理学療法の見学 3. 理学療法関連学会、技術講習会への参加 4. 日本人学生・大学院生との交流会 5. 現地の関連施設の見学	研修では医療機関での見学を含むため、来日する際には4種(麻疹・風疹・水痘・ムンプス)抗体検査結果に基づくとワクチン接種、B型肝炎抗体検査結果、COVID-19ワクチン3回接種を終えている必要がある	
39	札幌	個別長期	無	継続	L3	農業開発・農村開発	ドローン・GIS技術による自然資源管理手法	Natural Resource Management by using Drone, GIS technology	4	上	上半期いずれかで相談可			酪農学園大学	Rakuno Gakuen University	https://www.rakuno.ac.jp	教授 小川 健太/ 教授 森 夏節	OGAWA Kenta (Mr.) / MORI Kaori (Ms)	tech@rakuno.ac.jp	表計算ソフトの操作など、基本的なコンピュータ操作が可能なこと。リモートセンシングソフトの操作については問わない。	不問	不問	不問	不問	英語でのコミュニケーション可	農業、森林、環境管理に必要なGIS技術、GPS技術、マイクロ波リモートセンシング技術、ドローンの活用技術を得る。	環境空間情報学研究室、環境リモートセンシング研究室において開講している、基礎GIS、応用GIS、GIS・リモートセンシングによる空間情報の科学、リモートセンシング基礎演習など関連科目を履修するとともに、高度なGIS技術を得る専門演習にも参加し、技術の向上を図る。また、出身県(旭川)の実験的GISサーバ、衛星画像等を使い、ソフトの操作方法のみならず、帰国後に活用できるデータベースを構築する。研究成果は、学会等で発表する。また、東京、京都などの先進地を訪問し、今後の発展的GISネットワークづくりを行うとともに、GIS・リモートセンシングを活用した森林管理(SMAP)やリモートセンシング技術の一部は帰国後にも活用できる。Sentinel-1, Landsat, Alosなどの人工衛星画像や空中写真などから、抽出抽出手法、収量予測手法などを習得する。	環境空間情報学研究室、環境リモートセンシング研究室において開講している、基礎GIS、応用GIS、GIS・リモートセンシングによる空間情報の科学、リモートセンシング基礎演習など関連科目を履修するとともに、高度なGIS技術を得る専門演習にも参加し、技術の向上を図る。また、出身県(旭川)の実験的GISサーバ、衛星画像等を使い、ソフトの操作方法のみならず、帰国後に活用できるデータベースを構築する。研究成果は、学会等で発表する。また、東京、京都などの先進地を訪問し、今後の発展的GISネットワークづくりを行うとともに、GIS・リモートセンシングを活用した森林管理(SMAP)やリモートセンシング技術の一部は帰国後にも活用できる。Sentinel-1, Landsat, Alosなどの人工衛星画像や空中写真などから、抽出抽出手法、収量予測手法などを習得する。	応募締切は5月末日コースの締切日です。
40	札幌	個別長期	無	継続	L4	栄養改善	食品科学と栄養管理	Food Science and Nutrition Management	2	上	5/7	3/5	酪農学園大学	Rakuno Gakuen University	https://www.rakuno.ac.jp	教授 石井 智美	ISHI Satomi (Ms)	ishii@rakuno.ac.jp	食べること、料理、栄養について関心を持っていること。	不問	不問	不問	不問	不問	不問	① 食品科学と栄養学の見地から、出身国に最適な科学的な日本の家庭料理の味を工夫が付く。実践的な日本の家庭料理の味を守り、日々の暮らしの良さを伝えること。 ② 生活習慣病予防の見地から、帰国後活用できる栄養学、公衆衛生、食品衛生、栄養管理の知識を増やす。 ③ 日本の専門料理、家庭料理、日本の食文化を学ぶ。	① 食品科学と栄養学の見地から、出身国に最適な科学的な日本の家庭料理の味を工夫が付く。実践的な日本の家庭料理の味を守り、日々の暮らしの良さを伝えること。 ② 生活習慣病予防の見地から、帰国後活用できる栄養学、公衆衛生、食品衛生、栄養管理の知識を増やす。 ③ 日本の専門料理、家庭料理、日本の食文化を学ぶ。	研修員の希望を聞き、より帰国後の仕事に生かせるプログラムを作成して提供する。前半は、大学の希望する授業、実習、料理実習、研究家のゼミナール等に参加し、料理、栄養について広く学ぶ。後半はより関心のある分野に力を置いて実習を進める。科学的な見地からの研究、栄養学、食事と健康の調査にも参加する。帰国後の栄養管理、料理実習などで力を発揮することを目的と、定期的に言語状況を把握し、相談しながら研修を進める。食に関する科学的な分析、衛生に関する研究も併せて実施することが可能で、各種の学会へ参加し見聞し、希望があれば研究成果を学会発表も行う。帰国後の各研修、調査の継続に向けての検討、準備を行う。	本研修はある程度までは英語、スペイン語で対応できますが、日本語を習得する意欲がある方を希望
41	横浜	個別長期	-	継続	L5	都市開発・地域開発	日本の伝統的造園施工技術	Traditional technology for construction of Landscape Architecture in Japan	1	上	上半期いずれかで相談可	来日日から約5か月後	学校法人 東京農業大学	Tokyo University of Agriculture Educational Cooperation	https://www.nodai.ac.jp/eip/	鈴木貞次郎	SUZUKI Kojiro (Mr.)	kojiros@nodai.ac.jp	造園、園芸、農業、都市計画の研究・教育や職業に携わっている方	大学卒業程度	1	不問	N2	英語でのコミュニケーション可	各県でつくられてきた日本庭園をはじめとし、各空間にみられる植栽・施工管理に活用できる日本の伝統的造園と施工管理技術の基礎を得る。	① 主要な日本庭園で使われる材料(植物・無機物)の習得 ② 植物管理の意義と手法の習得 ③ 基本的な造園技術(竹垣等)の習得	1. 講義: ①日本庭園の構成、②日本庭園の材料(植物・無機物)・実習(Field Practices) 2. 実習: 植物管理(剪定)の手法、竹垣の製作技術、土壌管理・分析法 3. 見学: 東京都内、京都、地方(石川県や鹿児島県、鳥根県)の日本庭園	応募締切は5月末日コースの締切日です。5月8日に来日の場合は技術研修期間は30までの予定です。6月及び7月来日となった場合も、同様に約5か月の研修を受講いただきます。	
42	横浜	個別長期	-	継続	L6	環境管理	家畜寄生虫病および人獣共通寄生虫病の診断予防技術	Diagnosis and control for epizootic and zoonotic parasitoses	2	上	5/7	2/6	麻布大学	Azabu University	https://www.azabu-u.ac.jp/english/	平 健介	TAIRA Kensuke (Mr.)	taira@azabu-u.ac.jp	生物学の基礎知識を持つ者、畜産あるいは公衆衛生に関わる者、臨床検査技師や薬剤師の資格保持者等。	大学卒業程度 ※一般的にコミュニケーションが可能な方。	不問	不問	N4 ※一般的にコミュニケーションが可能な方。	英語でのコミュニケーション可	1. 動物衛生および公衆衛生に関する知識の習得および寄生虫病の診断・予防技術の習得 2. 食品由来病原体制御のための国家情報ネットワークの構築 3. 日系社会における畜産や水産業発展のための技術の習得 4. 日本の文化、社会および国際的立場についてのより一層の理解。	1. 講義(魚類を含む)の寄生虫病および人獣共通寄生虫病の診断・予防技術、原因、宿主、発生、発生節動物などの検出および同定法などについて学ぶ。 2. 実習: (1) 糞便内虫卵検査(浮遊法、沈澱法、定量的検査法)。 (2) 子虫培養(びん培養、濾紙培養、瓦版培養)、胃腸内感染寄生虫の形態による同定。 (3) 魚類寄生虫の観察と同定。 (4) 吸虫標本の作成、観察と同定: 肝臓、絛形吸虫、双口吸虫、絛形、日本住血吸虫など。 (5) 中間宿主体内の吸虫の発育観察: ミラジウム、スポロシスト、レジン様、セルカリア等。 (6) 実習の作成と観察: ベネデチン象虫、拡張象虫、単包象虫、多包象虫等。 (7) 2種類の観察と標本作製法を同定: マダニ、ヒゼンダニ、ワケモ、イエダニ等。 (8) 昆虫類の観察と同定: ノミ、シラミ、ハジラミ、カ、ゴキブリ等 (9) 分子生物学的手法(PCR, Real-time PCR, LAMP等)を用いた寄生虫同定法。 (10) 寄生虫感染に対する宿主免疫反応の観察。 3. 見学: 家畜保健所、家畜診療所、食肉衛生検査所、水産試験場、大学の研究センター等。 4. セミナー: 国内学会参加、研究家のセミナー参加。 5. 発表: 学内あるいは国内の研究学会や学会、最終日の研修報告。 以上の他に、研修者の要望を聞き、当人が学びたい技術のできるだけ習得させる。□	研修受け入れ時期や期間については相談に応じます。申請書で2人を受け入れるとしているが、1人でも受け入れ可能。□		
43	横浜	個別長期	-	継続	L7	環境管理	Agro-Biodiversityの保全を目指した土壌管理手法	Soil Management Technique for Conserving Agro-Biodiversity	2	上	5/7	11/15	特定非常利活動法人 環境修復保全機構	Institute of Environmental Rehabilitation and Conservation	https://www.erecon.jp/	河邊 久美子	KAMIBE Kumiko (Ms.)	ha-erecon@nifty.com	環境や農業に関する知識または経験が有するものが望ましい□	大学卒業程度	不問	不問	不問	英語で資料読解、発表、レポート作成可	研修目標は、持続可能な農業を習得するとともに、生物多様性に配慮しつつ持続可能な農業生産を維持できる土壌管理技術を得ることである。 1. 中南米で適用可能な持続可能な農業を習得すること。 2. 調査(Research): 土壌動物の多様性に基づいたAgro-Biodiversityの評価等。 3. 土壌管理および生物多様性の保全に関する体系的な知識を得ること。 3. 住民参加型手法を習得すること。 4. 生物多様性評価を含む土壌分析技術を得ること。	1. 講義(Lectures): 全て英語での開講科目 2. 実習(Field Practices): ベネデチン象虫、拡張象虫、単包象虫、多包象虫等の観察と標本作製法を同定。 3. 調査(Research): 土壌動物の多様性に基づいたAgro-Biodiversityの評価等。 4. 土壌管理および生物多様性の保全に関する体系的な知識を得ること。 5. 実験(Experiments): 土壌分析に関する専攻実験、基礎実験 6. セミナー(Seminar): 大学院生や専門家との意見交換等を行う。	Information on 1. organized and 2. co-organized bodies 1. Institute of Environmental Rehabilitation and Conservation (ERECON): ERECON founded in 2000 is the international non-profit organization (www.erecon.jp) registered in Tokyo Metropolitan Government as well as Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT). This Institute has been advancing various international extension programs in the fields of sustainable development in agriculture. 2. Faculty of Regional Environment Science, Tokyo University of Agriculture (Tokyo NODAI): Tokyo NODAI founded in 1891 is one of the oldest universities in agricultural field (www.nodai.ac.jp) and strong in agricultural and agro-environmental education and research. □		
44	関西	個別長期	無	新規	L8	法・司法	知的財産活用に関する基礎研修	Basic Skills of Intellectual Property Utilization	2	上	5/7	10/6	大阪工業大学大学院知的財産研究所	Oeaka Institute of Technology, Graduate School of Intellectual Property	http://www.oit.ac.jp/graduate/	内藤 浩樹	NAITO Hiroki (Mr.)	hiroki.naito@oit.ac.jp	大学の学部レベルの教育を受けていること。法律、経済、技術の分野において、少なくとも1年以上の経験を有すること。知的財産分野における経験があれば望ましい。	大卒	1	不問	N4	英語で資料読解、発表、レポート作成可	(1) 知的財産制度の基礎知識を得ること。 (2) 研究開発・技術移転などの知的財産活用に関する知識を得ること。 (3) 中小企業(SME)を支援する知的財産支援の手段を理解すること。 (4) 伝統的知識や医薬品アクセスの問題など個別の知的財産問題を理解すること。	(1) 基礎知識の習得-講義を中心に、特許・実用新案、意匠、商標著作権法、不正競争、知的財産契約、国際条約、知的財産戦略、知的財産の経済的効果などを学ぶ。 (2) 特許技術、登録商標、判例の調査分析演習-技術データベース法情報データベースを用いて、必要な情報を収集し、分析する。 (3) 訪問調査-日本国内の関係官庁(特許庁、裁判所ほか)、関係団体(発明協会などの専門機関)、企業・事務所(代表的企業、中小企業、特許法律事務所)などを訪問し、ヒアリング調査を行う。 (4) 研修員自らが設定した知的財産の課題についての理解を深め、自国においてその課題を解決するために必要な計画や提案を示すことができる。			
45	中国	個別長期	無	継続	L9	農業開発・農村開発	日本式の高品質肉牛生産のための効率的・効果的な生産、繁殖、健康管理	New efficient and effective production, reproduction and health management for high-quality beef based on Japanese Cattle farming system	1	上	5/7	2/23	国立大学法人 山口大学	Yamaguchi University	http://www.yamaguchi-u.ac.jp/	角川 博哉	Hiroya Kadokawa (Mr.)	hiroya@yamaguchi-u.ac.jp	・基本的な動物についての知識を身に付けていること。 ・新卒でもなくとも、畜産農家の子弟や畜産関係者や就業希望者であれば可能。 ・異文化の中で多くの人と一緒に働くための適応力と協調性。 ・好奇心旺盛で勉強好きであること。	大卒(相当)	不問	不問	不問	英語でのコミュニケーションができれば問題ない。	最新の畜産学・獣医学の知見の習得と共に、高品質畜産物の生産現場での実習に基づき、生産と共に立ちまわると同時に、自身のルーティンとなる能力を習得し、新しい効率的な疾病予防、繁殖、衛生管理を含む総合体系を導入・展開するための基礎を得ること。	1. 高品質畜産物を生産する上で求められる最新の畜産学、生産学、衛生学等の知識、生産効率向上と繁殖についての知識・知見の習得、2. 肉用牛の格付け方法の習得、3. 生産に関わる細菌や遺伝子について、分子レベルや細胞レベルでの畜産生産にいて考える能力の習得、4. 牛肉生産施設訪問を通じた改善ポイントの習得。	最新の畜産学、生産学、衛生学等の講義と実習、2. 牛肉の格付け方法、3. 生産に関わる細菌の培養や遺伝子発現解析、4. 臨床獣医師実用実習参加、5. 牛肉生産施設訪問。		
46	中国	個別長期	無	新規	L10	保健医療	日本の看護技術・知見の習得及び日系アイデンティティの涵養	Acquiring Japanese Nursing Skills and Knowledge and Cultivating Japanese (Nikkei) Identity	1	上	7/23	1月	島根県	Shimane Prefectural Government	http://www.pref.shimane.lg.jp/	増田 純子	MASUDA Ayako (Ms.)	bunka-kokusai@pref.shimane.lg.jp	・日系団体の青年部等に所属している者、または今後所属する意思がある者で、当該団体からの推薦を得られること(研修効果に臨み、職員入会等、島根県にルーツが有る者が望ましい)	大卒(相当)	1	不問	N3程度以上が望ましい	英語でのコミュニケーション可	日本の大学や病院での講義及び実習を受けること、日本の看護技術・知見が習得されること、自国で応用可能な内容を整理し、実践できるようなこと。 4. 日本の伝統文化等に関する知識を得ること。	1. 日本における看護及び実習に参加 ① 講義: 大学にて講義に参加 ② 実習: 国内総合病院での実習に参加 2. 病院での実習 ① 病院が指示する部署で看護助手業務のサポートを行う。 3. 日本文化等に関する視察・実習等 4. 関係者への研修結果の報告			
47	中国	個別長期	無	継続	L11	農業開発・農村開発	観光果樹園経営及び果樹栽培技術に係る長期研修	Management of Tourist Fruit Farm and Cultivation Technique of Fruits (Long Term)	1	上	5/7	11/17	公益財団法人 ひろしま国際センター	Hiroshima International Center	http://hiroshima-ic.or.jp/	迫本 啓吾	SAKOMOTO Keigo (Mr.)	hico12@hiroshima-ic.or.jp	日本語で研修受講が可能な語学力を有していること。	不問	不問	不問	N3以上	不問	1. 果樹(イチゴ、スモモ、ブルーベリー、モモ、ブドウ等)の先端栽培及び収穫に係る技術を得ること、2. 加工技術と商品化マーケティングのノウハウを得ること、3. 観光果樹園の経営手法を得ること。	1. 果樹栽培管理技術の向上、2. 加工品の商品化、販売ルートの開拓、観光果樹園経営の成功。	平田観光園の業務に従事し、実習を積み重ねた技術を得ること。最も重要な開花期の受粉から収穫が終わるまでを研修する。		

2023年度日系社会研修研修コース一覧

所轄センター	実施形態	複数年度採択有無	区分	No.	分野	研修科目和文	研修科目英文	要人人数	上下	来日	終了	提案団体	提案団体英語表記	提案団体URL	担当者名	NAME	E-mail	現職・資格・知識	学歴	経験年数	年齢	日本語能力	英語検定	①目標	②成果	③計画(内容)	備考	
48	中国	個別長期	無	継続	L12	農業開発・農村開発	伝統的産品を活用した地域ブランドの創出と地域の活性化	1	上	5/7	11/10	公益財団法人ひろしま国際センター	Hiroshima International Center	http://hiroshima-i.c.or.jp/	迫本 啓吾	SAKOMOTO Keigo (Mr.)	hico22@hiroshima-i.c.or.jp	手芸、デザイン等の分野での地域産品の開発に関心があること。経験があれば、より高い研修効果を期待できる。	不問	不問	不問	N3以上	不問	1. 「工務尾道帆布」における実習を通して、地域資源の再発見と活用、地域産品開発を通じた地域課題の解決、地域再生の知見が得られる。 2. 研修員に、日本の地方コミュニティにおける課題(人口減少、アイデンティティの喪失、地域資源の活用等)が理解される。 3. 研修員の母国において応用可能な技術、手法が整理される。 4. 帰国後の具体的な活動計画が作成される。	1. 研修員に、「工務尾道帆布」の事例を通して、地域資源の再発見と活用、地域産品開発を通じた地域課題の解決、地域再生の知見が得られる。 2. 実習・OJT: 「工務尾道帆布」における地域産品の製造、販売、マーケティング等。 3. 見学: 関連団体の施設、活動。 4. 演習: 研修成果の取り纏め。 5. 発表: 関係者への研修成果の発表。			
49	四国	個別長期	無	継続	L13	保健医療	歯科補綴学	Prosthodontics	2	上	5/7	3/6	徳島大学	Tokushima University	http://www.tokushima-u.ac.jp/dent/	松香 芳三	MATSUKA Shozo (Mr)	matsuka@tokushima-u.ac.jp	対象国における歯科医師免許	大学卒業	実務経験3年以上。実務経験最終年度の実務経験等。	不問	不問	英語でのコミュニケーションがある程度可能であること。	1. 最新の歯科補綴治療技術(接着ブリッジ、インプラント義歯、CAD/CAM冠など)の習得 2. 上下歯のかみ合わせの状態に対する診断技術の向上 3. 口腔顔面痛に対する治療技術の習得 4. 金属アレルギーの治療技術の習得	1. 最新の歯科補綴治療技術(接着ブリッジ、インプラント義歯、CAD/CAM冠など)の習得 2. 上下歯のかみ合わせの状態に対する診断技術の向上 3. 口腔顔面痛に対する治療技術の習得 4. 金属アレルギーの治療技術の習得	教室主催のセミナー・論文抄読会への参加、マネキンを用いた基礎実習、コンピュータを利用した補綴装置の設計や削りだしの実習、関連学会への参加を予定している。また、現在教室で行われている研究(睡眠時ブラキシズムの解析、組織再生、金属アレルギー解析、口腔顔面痛発症メカニズムなど)にも参加し、大学院進学が可能なように研究指導を行う。なお、受け入れ担当者は、日本補綴歯科学会、日本顎関節学会、日本口腔顎顔面学会、日本口腔リハビリテーション学会の指導医である。	
50	四国	個別長期	無	継続	L14	保健医療	歯科矯正学	Orthodontics	1	上	5/7	3/6	徳島大学	Tokushima University	http://www.tokushima-u.ac.jp/dent/	田中 栄二	TANAKA Eiji (Mr)	etanaka@tokushima-u.ac.jp	対象国における歯科医師免許	大学卒業	実務経験3年以上。実務経験最終年度の実務経験等。	不問	N2	英語でのコミュニケーションがある程度可能であること。	・最新の矯正歯科技術(リンガルブラケット矯正歯科治療、インプラント矯正歯科治療、外科的矯正歯科治療、口唇裂口蓋裂児、OTなどの画像データを用いた診断技術の向上) ・変形顎関節症患者に対する治療技術の習得	エッジワイズ法に関するタイポント実習、教室主催のセミナーや論文抄読会への参加、および関連学会への参加を予定。加えて、現在、当教室で進行している研究(変形顎関節症の術後解析と治療メカニズムの解析)にも参加し、大学院進学が可能なように研究指導を行う。なお、本件担当者は、日本矯正歯科学会の指導医・認定医、日本顎関節学会の専門医、指導医であり、厚生労働省の臨床研修指導歯科医資格(外国人歯科医師指導資格)も有している。		
51	四国	個別長期	無	継続	L15	自然環境保全	自然環境保全を目指したバイオ複合材料の調査研究	Research and edification on bio-composite materials aiming the conservation of natural environment	2	上	上半期いずれかで相談可	3/15	徳島大学	Tokushima University	http://www.tokushima-u.ac.jp/	長谷崎 和洋	HASEZAKI Kazuhiro (Mr)	hasezaki@tokushima-u.ac.jp	理系大学在学中または卒業	大学卒業	不問	不問	ポルトガル語で会話できるが在籍しているため、ポルトガル語を話せる場合は日本語能力不問。スペイン語を話せる場合は、日本語試験N3以上(ただし、研修期間中の徳島大学が開催する日本語教室を必ず受講すること)	全世界で自然環境保全を目指したバイオ複合材料が必要とされていることを理解し、調査研究を通じて、専門知識を得る。さらに、徳島大学での先進技術を知ること、日系社会の発展と移住先国の国連りに貢献できる新しい取り組みを検討する。	1. 石油由来のプラスチックごみの環境に及ぼす影響について理解すること 2. 石油由来のプラスチックに代わるバイオ複合材料についての知識を得ること 3. 最新のバイオ材料の研究動向を知ること 4. 自然環境保全を目指したバイオ複合材料の試作研究を行い、専門知識を得ること	1. 調査: 教員から個別のレクチャー、学術論文読解、最新の研究動向を文獻ベースで調査し、問題点の抽出ならび解決策の一つであるバイオ材料の現状分析調査を行う。バイオ複合材料が研究の一分であるエコマテリアル国際会議に参加し、最新の研究動向を情報収集し、大学院進学が可能なように研究指導を行う。 2. 試験計画策定: 問題を解決するためのバイオ複合材料の試作について、試作方法、分析方法、評価法について、試験計画を策定する。 3. 試作試験: バイオ複合材料の試作を行う。 4. 分析: 適切な分析評価方法を調査し、分析を行う。 5. 報告: まとめ、分析結果から目的としたバイオ複合材料の試作の可否ならびにさらに性能向上に向けた問題点をまとめる。	応募締切は5月末日コースの締切日です。	
52	四国	個別長期	無	継続	L16	地域開発・民間セクター開発	エコツーリズム産業における起業家育成	Entrepreneur education in the ecotourism industry	2	上	5/7	2/2	香川大学	Kagawa University	https://www.kagawa-u.ac.jp/	平見 尚隆	HIRAMI Naotaka (Mr)	hirami_naotaka@kagawa-u.ac.jp	大学でツーリズム或いは地域イノベーションなどを学習した経験があること、或いは、観光産業での実務経験があること。	大学卒業程度	観光産業の場合、実務経験も概ね2年以上有る。	不問	不問	日本語検定N2レベルが望ましいが、英語での野コミニケーション能力がある場合(TOEIC 700点程度)は、必要要件としない。	研修を通じて得られるデータや知見に基づき、新規性のある自国でのエコツーリズムを提案できるレベルの力量を身につけることを研修目的とする。その上で上の発表イベントやGPECOでのディベートでの提案に対するフィードバックをベースに本国でのエコツーリズムに関する事業提案のブラッシュアップを行う。研修終了時には母国の日系社会で共感を得られ、事業開始に結び付けることができるレベルの提案に仕上げられることを目標とする。	本事業提案の受入代表者である平見(香川大学創造工学部教授)はスペイン語、英語(書寄多数)が堪能であることから、大学で教鞭をとる傍らから申請者のエコツーリズムスポットを数多く訪問し、本産業に關しての調査・研究を行い、そのポテンシャルの高さを講演や論文を通して紹介している。一方、平見は広島大学で6年程、産学官連携やアントレプレナー教育に携わっており、新たな産業構築のための教育に注力してきた。さらにJICA日星戦略的グローバル・パートナーシップ研修プログラム事業で2017年から合計で16人のメキシコ人研修生を受け入れてきた実績がある(内4名は現在在日研修中)。日系社会研修事業では、この間に携われたアントレプレナー教育に関する講義やゼミを中心とした、教育プログラムをベースにした事業提案を行う能力を身につけてもらう。その上で日本におけるエコツーリズムに対する期待と現状を調査頂き、現地社会でのあるべきエコツーリズムを提案できる技術と力量を身につけていただく。帰国後は現地日系社会を巻き込み、事業の具体化を進めることで、形式にとわれない実質的な日系ネットワークの構築に結び付けていただく。	・来年度同時期に予定されているJICA日星戦略的グローバル・パートナーシップ研修プログラム事業とできる限り並行して行うようカリキュラム日程を調整、研修員間のシナジー効果を出していく。 ・創造工学部・造形・メディアデザインコースのエンジニアリングデザインスタジオ所属学生と日系研修員との協働が期待される ・研究と同時に日本の文化や若い世代の考え方を知っていただく良い機会とする。 ・起業家を目指す学生クラブの各部門との関係も構築する。 ・エコツーリズムに関しては、香川大学の講義の聴講をひびきゼミ形式での議論を進めていく。また、「新日本ガラパゴス研究会」メンバーとの討議を設け、エコツーリズムに関しての理解を深める。 ・主として中国四国地方のエコツーリズムスポットを訪問し、日本のGlobal First Peninsula Club(GPECO)のメンバーとのつながりを深め、コメントなどをもらいながら進めていき、研修終了時にはこのイベントで発表を行うことを目標とする。	
53	九州	個別長期	無		L17	保健医療	早期胃癌の内視鏡診断と治療	Endoscopic diagnostics and therapeutics of early gastric cancer	1	下	下半期いずれかで相談可		国立大学法人九州大学	Kyushu University	http://plaza.umin.ac.jp/med/en/index.html	森山 智彦	MORIYAMA Tomohiko (Dr)	hiko_moriyama.153@kyushu-u.ac.jp	医師(内視鏡経験が1年以上で年齢60歳以下) 経験年数: 医学部卒業後2年以上かつ臨床経験2年以上	大卒程度	2年	60歳以下	不問	技術研修は英語で実施	世界トップレベルの日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新機器を用いた早期胃癌の発見法と治療法を学ぶ	・日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習熟できる ・次世代型トレーニングモデルや切除術を用いた治療内視鏡のシミュレーションを用いて、治療内視鏡の技術とコツを学ぶ ・帰国後の自国における具体的な活動計画を作成する ・インターネットを用いて日本と自国の遠隔医師教育講座を開催し、継続的な医療教育を行うことで自国における早期胃癌の診療レベル向上に寄与する	1. 講義: 最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加 2. 見学: 九州大学病院および関連施設における内視鏡検査と見学と討論 3. 実習: 粘膜炎モデルやブタから切除した臓器を用いた内視鏡治療のトレーニング 4. 学会参加: 日本消化器内視鏡学会や日本消化器内視鏡学会を中心とした学会、研究会への参加 5. 発表: 病院内で研修内容を発表、自国の所属施設と接続しての研修報告	応募締切は10月末日コースの締切日です。

2023年度日系社会研修研修コース一覧

所属センター	実施形態	複数年度採択有無	区分	No.	分野	研修科目和文	研修科目英文	要入人数	要上下	来日	終了日	提案団体	提案団体英語表記	提案団体URL	担当者名	NAME	E-mail	現職・資格・知識	学歴	経歴年数	年齢	日本語能力	英語検定	①目標	②成果	③計画(内容)	備考		
54	沖縄	個別長期	無	継続	L18	都市開発・地域開発	ウチナーネットワークを活用した持続可能なコミュニティ運営	Sustainable community management using the Uchina network	2	上	7/23	1/23	一般社団法人世界若者ウチナーンチュユ連合会	World Youth Uchinanchu Association	https://wyua.okinawa/	比嘉 千穂	HIGA Chiho(Ms.)	all@wyua.okinawa	県系社会で沖縄文化活動に携わっている。	不問	不問	想定年齢(20歳-40歳以下)	N3(同等レベル、会話力を重視)	英語でのコミュニケーション	研修員がウチナーネットワーク継承にかかると運営管理の手法などを習得する。	① 研修員に、世界のウチナーネットワークの全体像が理解される。 ② 研修員に、若者を対象にしたアイデンティティの強化にかかる企画力が習得される。 ③ 沖縄県内での地域活性化事例を参考にし、研修員が、自国で適応可能なアイデアを考案する。 ④ 研修員が、帰国後の具体的な活動計画を作成する。	① 沖縄の歴史 ② 沖縄移民の歴史 ③ 世界のウチナーンチュユとは ④ フォリションとは ⑤ 企画作りとは ⑥ SNS動画配信の活用方法 ⑦ しまくとらば(沖縄の言葉)等 ⑧ 実習・OJT: ① 世界のウチナーンチュユ大会にかかる多言語相対話・情報収集・発信、世界若者ウチナーンチュユ大会など若者を対象としたアイデンティティ継承への企画、ソーシャルメディアを活用した広報、他 ② 実習・OJT: ③ 見字: 他団体の施設、活動(公的機関、民間)	1. 講義: ① 沖縄の歴史 ② 沖縄移民の歴史 ③ 世界のウチナーンチュユとは ④ フォリションとは ⑤ 企画作りとは ⑥ SNS動画配信の活用方法 ⑦ しまくとらば(沖縄の言葉)等 2. 実習・OJT: ① イベントポスターやSNSで活用するバナー制作等デザインに興味がある。	本研修は、実習・OJTが中心となり相互の言語コミュニケーションが必要となるため、その他: Word, Excelの基本的な操作ができる。